

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

|     |           |      |       |          |       |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 広島市立温品中学校 | 校長氏名 | 内田 智久 | 生徒指導主事氏名 | 土師 正伸 |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|

## 取組事例名

『生徒指導の三機能を生かした修学旅行の取組』

## 取組のねらい『キーワード 「自律心と社会性」』

自然とのふれあいや集団活動を通して、集団の一員としての自覚を持ち、仲間と協力し、責任ある行動ができるよう、規律やマナー・礼儀の基本を学び、人間形成の場のひとつとして実施する。

## 取組の具体的内容『キーワード 「自主性と集団行動」』

<事前>

- 1 保護者説明会で、夏季休業中に家庭での仕事や寝等をお願いとしてリストを配付し、保護者と連携してマナーの向上に取り組む。
- 2 実行委員会で、必要な取組の内容を考え、自ら立案し、各集会活動や各点検活動、各クラスでの取組を実行委員が運営する。
- 3 自分の現在の課題を考え、どう取り組んでいくかを各クラスで交流する。
- 4 自己診断カードで、夏休み中の取組の評価をし、これからの課題は何かを考える。
- 5 実行委員会で、できていることと課題を持ち寄り、今後の取組を検討する。
- 6 実行委員が、集会で成果と課題を発表し、今後の課題克服のための取組を呼びかける。
- 7 実行委員会で、修学旅行前1週間の取組について、各民泊グループで評価する。



<事後>

- 1 民泊体験でできたこと、できなかったことを考え、グループで交流する。
  - ・ 成功体験を元に、自己肯定感、自己決定力を高めるとともに、反省点を考えさせることによって、課題発見の力をもつけさせる。
- 2 民泊家庭へのお礼の手紙とパンフレットを作成する。
  - ・ 自分の言葉で感謝の気持ちを伝えられるよう、グループで意見交流させ、共感的人間関係の育成を図る。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 「自立と協働」 』

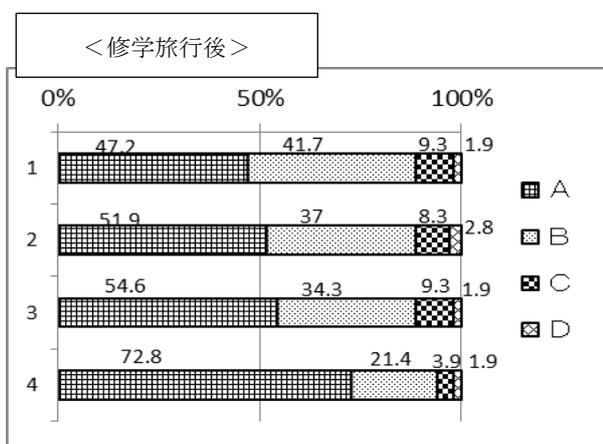
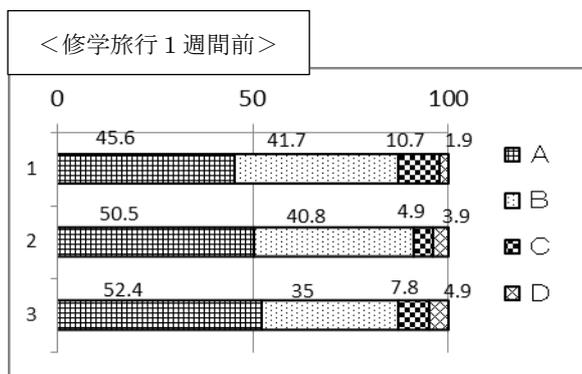
- 1 できるだけ実行委員に任せ、取組前に教員は口を出さないようにする。
- 2 実行委員から出てきた案を、教員と共に検討する。
- 3 実行委員が取組の企画・運営をすることで、生徒自らが行事を進めていくという自主性と協働意識を持たせる。
- 4 自己評価で「できたこと」を評価し、グループで課題を見つけさせ、新たな取組を考えさせる。

## 取組の成果（効果）『キーワード 「自己肯定感の向上」』

- ・ 民泊家庭での生活で、コミュニケーションの大切さを学び、積極的に仕事に関わり褒められたことで、自己肯定感や自己決定力を高める生徒が出てきており、そのような生徒が学年のリーダー的な存在となりつつある。
- ・ 自ら仕事をしたことが、各民泊家庭で評価されたことにより、「向上心」を持つようになった生徒が多くなった。
- ・ 授業をしっかりと受けよう、学校生活をしっかりと送ろうという意識が見られ、生徒同士の声かけや集団行動時の自制心や規律を守ろうという姿勢が見られるようになった。

質問1 ルールを意識して活動できた  
 質問2 グループでは積極的に活動できた  
 質問3 自分の役割を自覚して活動できた  
 質問4 修学旅行を通して（取組も含む）、自分は成長できたと思う

A：とてもあてはまる  
 B：だいたいあてはまる  
 C：あまりあてはまらない  
 D：ぜんぜんあてはまらない



## 今後の展開『キーワード 「協同学習」』

- ・ 修学旅行の取組を生かし、生徒自らが学習に取り組む姿勢を養う。
- ・ コミュニケーション能力と積極的な学習への姿勢を育成するために、各教科で協同学習を取り入れる。

## 他校へのアドバイス『キーワード 「教員-生徒の協働」』

- ・ 生徒に立案、運営をさせるには時間がかかることですが、1年時から「将来のリーダー育成」を考え、様々な行事で発案させる習慣をつけさせておくことが大切です。「1年生だからまだできない」ではなく、子どもの自由な発想を促し、その中でルール等の規範意識を身につけさせることが大切です。
- ・ 生徒が何かの取組をする際には、初めからルールのことを細々と話したり、強く制約をかけないこと。生徒は、やっていいのかわからず、教員に聞きに来ますが、このとき、「これはダメ、あれはダメ」と禁止するのではなく、まずは「企画させてみて、一緒に考える」という手順をとると、生徒は自然とルールを覚えていきます。
- ・ 生徒が考えて持ってきたものを、生徒と一緒に考え、「できること」と「できないこと」をしっかりと教えていきます。そうすることによって、様々なルールの中で生徒が自ら考え、計画していく力がつきます。
- ・ 生徒の自由な発想の中から、それが一つでも認められれば、生徒に「やる気」が生まれ、その後も自ら考えようという習慣がついていきます。
- ・ 要は、「認めること」「認められること」が自己存在感、自己肯定感に繋がっていき、将来のリーダーとしての資質を身につけるようになります。